

## 対外政策と“ニセ旗”：トランプのリアリティ番組“戦争とチョコレート”

【訳者注】この面白いエピソードによって、トランプという人物の性格がかなりの程度わかる。彼は人に向かって自分の権力を見せつけたいという、かなり単純な男である。これまで周囲からがんじがらめに遭わされて、それができなかった。一旦、悪人の仲間に入ることになると、うずうずしていたものが一遍に解放された。それで習近平主席に向かって、こういうド派手な演出をして溜飲を下げたに違いない。彼は歴代大統領のような、指一本で世界を震え上がらせるようなことを、やってみたくてしようがなかったのだろう。

しかし彼が自画自賛し悦に入って、ミサイルが 59 本とも命中したと子供のように威張って見せたのは間違いだった。59 本でなく、当たったのは 23 本で、残りの 36 本はおそらく海に落ちた。これはアメリカ史の喜劇的一幕として残るだろう。このことは、モスクワへ談判に行ったティラーソンも知らなかったはずである。彼が最後まで怪訝な顔をしていたというのはそのためであろう。

Prof. Michel Chossudovsky

Global Research, April 19, 2017



我々はいったい、どういう大統領をもっているのか？

シニカルで悪魔的な？ 4月6日晚、マララゴで開かれたトランプの、習近平中国主席との贅沢な晩餐会は、シリアへのミサイル攻撃と、注意深く時間を合わせて計画されたものだった。

習とトランプはともに妻を伴っていた。賓客や家族メンバー、それに両国の高官たちが、16世紀ローマのパラッツォ・チギを模した、フロリダ、パームビーチのマララゴで一堂に会していた。



**Doug Mills** ✓  
@dougmillsnyt

+ Follow

President Trump host a dinner for President Xi Jinping of China at the Mar-a-Lago Club in Palm Beach, Fl.



RETWEETS  
**521**

LIKES  
**1,257**



4:35 PM - 6 Apr 2017 from [Florida, USA](#)

その4月6日木曜日の晩、宴長けてデザートが出された。ドナルドはテーブルについて、習近平と共においしいチョコレートを食べていた。食べながら彼は、中国主席とその随行者一行の見ている前で、シリアに対してトマホーク・ミサイルの攻撃を命じた。

「私はテーブルに座っていました。ディナーを終えたばかりだった。今度はデザートを食べていた。これは今までに見たこともない、素晴らしいチョコレート・ケーキで、習主席もおおいしそうに食べていたね。」(Fox News のテレビ・インタビュー、下を見よ)

アメリカの対外政策の歴史上こんなことがあったか？ トランプはこれを、リアリティ番組“戦争とチョコレート”として興行した。これは、アメリカの侵略にかかわる意志決定の仕方の変更であった。

この晩餐会はまた、習近平主席と中華人民共和国代表の“親米感情”を、煽る腹積もりで行われた PR 作戦の一部でもあった。

トランプのシリア攻撃の命令は、習主席との公式晩餐会の最後の“デザート段階”にシンクロするように、注意深くタイミングが計られていた——

「そして私は、将軍たちから、船がロックされて装填されたというメッセージを受け取った。

どうしますか？　そこで我々は、それを決行する決断をしたのです。そしてミサイルが飛び出した。

そこで私は言いました、〈主席閣下、ちょっと説明させていただきます。——これはデザートの中だよ——我々はたった今、59発のミサイルを発射しました。なんと、その全部が命中したのです。信じられないことです、何百マイルも離れているのだから。すべて命中というのだから信じられない、見事だ、天才だ。我々の技術は誰よりも5倍も優れているのです…

そこで何が起こったのか、私は〔習主席に〕言いました、我々は59発のミサイルをイラク（ママ）へ撃ち込んだのです…」

59発のミサイルは、トランプによれば、イラクに撃ち込まれたのだった。…おっとっと、彼は修正した、「シリアに向けて、です」。相手国を間違えたのだった。

「私は、彼がデザートを食べ終えて、まだ帰ってほしくなかった・・・すると彼らは言っていた——〈あのね、今あなたが一緒に食事をした人が、〔シリアを〕攻撃したと言っているのです〉」

そこでようやくトランプは、中国主席にデザートを食べ終えるように促した。

「すると彼はケーキを食べていましたよ——黙ってね。」

<https://youtu.be/PZBWvhUGvO0>（ドナルド・トランプがシリアへのミサイル攻撃を語る）

それからトランプは（フォックス・ニュースとのインタビューで）、習主席が、彼の犯罪的空爆を、通訳を通じて、是認したかのように言った。トランプによると習はこう言った——

「誰だって、子供や赤ん坊にガスを使ってそんな残酷なことをする者には、それはOK

だ」(強調引用者)

「彼は同意したのだ…彼 [習] は私を認めたのだよ」と、トランプは言った。

中国は我々の味方だ。

**誰だってとは誰のことだ？**

明らかにトランプは、国際外交というものがどう働くかについて、指先ほどの知識ももっていない。

また彼は、中国の政治家が公的な晩餐の席で、本心を明かすことなど決してないことを理解していない。彼らが言うことは常にきまって、自分の真意を隠す意図をもっている。

習近平の自然に出た——チョコレートのデザートを食べながらの——応答は、中国人民共和国の“是認”ではない。それについては数日前に、バシヤール・アル・アサド弾劾の国連安保理決議案に対し、彼らは礼儀をもって投票を棄権している。中国はまた、化学兵器問題を独立に調査することを求めたロシアの提案にも参加した。

**しかし大統領閣下、証拠がないのです。**

国連は 2013 年の報告で、シリアの反体制“暴徒”(ワシントンに援助された)が、「シリア政府軍に対して化学兵器を使ったかもしれない」ことを確認している。

<http://www.dailymail.co.uk/news/article-2320223/UN-accuses-Syrian-rebels-carrying-sarin-gas-attacks-blamed-Assads-troops.htm>

国連報告は、バシヤール・アル・アサドが自国民に対して化学兵器を使ったという、トランプの非難を反論しているのである。

国連使節団の見解が確認していることは、アメリカの援助する反政府“暴徒”——アルカーイダに親近関係のある集団からなり、西側軍事同盟によって財政援助されている——が、この 2013 年の化学兵器攻撃の下手人だということである。



## UN accuses Syrian rebels of carrying out sarin gas attacks which had been blamed on Assad's troops

- Carla Del Ponte said UN Commission investigating war crimes in Syria has 'strong, concrete suspicions' that rebels used chemical weapons
- Her remarks contradict statements by the U.S. and UK which said intelligence indicated Syrian soldiers used the weapons
- Today fighting continued across Syria as rebels advanced on a northern airbase and shot down helicopter in the east

By DAMIEN GAYLE and MAIL FOREIGN SERVICE

PUBLISHED: 14:18 BST, 6 May 2013 | UPDATED: 07:31 BST, 7 May 2013

(国連が非難、以前にアサド政府軍の仕業とされていたサリンガス攻撃は、シリア反政府暴徒の犯行だ——・カルラ・デル・ポンテは、シリアの戦争犯罪を調査していた国連調査団が、暴徒が化学兵器を用いたとする“強い、具体的な疑い”もっていると言った。・彼女の見解は、その兵器を使ったのはシリア兵だという情報機関を信じて主張した、米・英の見解と矛盾している。・きょうも戦闘はシリア全体に継続して行われており、反乱兵は北部の空軍基地まで侵攻し、東部ではヘリコプターを撃墜。

それだけでなく、最近の報告が確認したように、アルカーイダ反乱軍は、ペンタゴンと契約している専門家によって、化学兵器の使い方の訓練を受けている。これは馬(本人)の口から CNN が言っている — <http://www.globalresearch.ca/pentagon-trained-syrias-al-qaeda-rebels-in-the-use-of-chemical-weapons/558378>

情報源：アメリカは、シリア反乱軍が化学兵器を手にするのを承認する

<http://security.blogs.cnn.com/2012/12/09/sources-defense-contractors-training-syrian-rebels-in-chemical-weapons/>

残虐行為によって、トランプの命じた空爆は、子供を含む罪のない市民のさらなる死者を出した。

アメリカの情報機関はしばしば、騙しのわざ、すなわち証拠のねつ造に基づいて行動する。

しかしこの場合は、“騙しのわざ”はなかった。トランプが彼の空爆を正当化するのに使ったホワイトハウス報告は、フェイク証拠と“いい加減情報”に基づいていた。それは情報共同体の承認を得ていたのか？

この薄っぺらで反論されている、ホワイトハウス“情報局報告を”には、アメリカの隠ぺいの十分な証拠がある。

Dr. Theodore Postol の鋭いレポートを見よ：——

「シリア Khan Shaykhun の神経毒攻撃についての、ホワイトハウス情報局報告の評価」  
(2017/ 4/ 13) [https://drive.google.com/file/d/0B\\_Vs2rjE9TdwR2F3NFFVWDExMnc/view](https://drive.google.com/file/d/0B_Vs2rjE9TdwR2F3NFFVWDExMnc/view)

シリア大統領が自国民を殺しているなどという、いかなる証拠も出ていない。

ニセ旗であることは調べるまでもない。にもかかわらず、この“いい加減情報”は、中国主席とチョコレート・ケーキを食べていた、大統領と合衆国軍総司令官を、説得することはできたようだ。

そして中国主席は、この情報がフェイクだと知っている。

ワシントン（化学兵器を使用する反政府暴徒を支援していた）が、人類に対する更なる罪の首謀者であって、ダマスカスではない。

殺し屋はどっちですか、トランプさん？